

第6回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成29年1月12日（木）午前10時～午前12時

3 開催場所

マツダスタジアム 1階 大会議室

4 出席者

(1) 委員

委員11名中全員出席 代理出席1名

（谷村委員の代理として、広島商工会議所 下平 地域振興担当部長が出席）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議事

ひろしま都心活性化プラン（素案）について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者5名 報道関係者6社

8 懇談会資料名

次第

資料1 ひろしま都心活性化プラン（素案）（概要版）

資料2 ひろしま都心活性化プラン（素案）

参考資料 議会における都心活性化プラン（仮称）に係る意見等

9 各出席者の発言の要旨

議事

ひろしま都心活性化プラン（素案）について

【塚本座長】

- ・ 皆さんお早うございます。明けましておめでとうございます。
- ・ 前は3ヶ月前に平和記念公園の近くで開いたが、その時には、計画の内容等について、非常に密度の濃い意見をいただいたことを記憶している。
- ・ 今回は、それをもとに、ひろしま都心活性化プラン（素案）として、ほぼ最終に近い形で、まとめられてきたと伺っている。
- ・ 事務局からの説明をお聞きいただいたうえで、おそらく本日が色々な意見を言う最後の機会だと思うので、広島の30年後の姿や、将来像を描く上で、このようなものが要るといった忌憚のない意見を願います。
- ・ それでは事務局から資料についての説明をお願いします。

【事務局】

— 資料1、資料2に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ これまでの懇談会で、個別に説明していただいたものを取りまとめ、一つの計画としてまとめたものとして説明があったと思う。
- ・ 長い説明で、色々あったので、復習の意味で簡単に説明させていただく。
- ・ 資料2（以下、同資料）の7ページについて、これを是非、復習の意味で説明して下さいとお願いした経緯もあるが、様々な広島之都心づくりが、戦後から4つのフェーズで進んできた。
- ・ さあ、この後どうするか、これを踏まえた上で、次に何を指すのかということが、この場の議論になるということを確認させていただきたい。
- ・ それを踏まえて、どのような都心にしていくかということで、19ページ第3章の都心の将来像と目指す姿を提示された。
- ・ そのキャッチフレーズとなるものが「誰もが集える、にぎわいと交流の都心”ひろしま”」。これまでの懇談会の中で整理されてきたものである。
- ・ 前回までは、ここまでの内容であったが、今回、新たにきちんと整理して頂いたものが20ページのゾーニング図である。
- ・ これまで楯田と言っているのが4ページの図で示しているエリア。それと20ページのゾーニング図を見比べていただくと、少し広がっているのがお分かりいただけると思う。
- ・ 明らかに比治山公園やボールパークが入っていて、西は横川の近くまで入っている。
- ・ つまり、今回の計画の中で、何が新しいかということ、一つはこれまで楯田と言っていた範囲

を、もう少し広げて、この範囲で都心を考えていこうということ。

- なおかつ、このようなゾーニング図。今までは、これと同じような色付けの絵はなかった。
- 今回、新しくこのような色付けで今後の都心を考えていきたいという方針を出されたということが、この懇談会、計画づくりの中での一つの新しい内容だということである。
- ご説明はされなかったが、これは非常に大きなことではないかと思う。
- その中で、私の記憶でも、平和公園と比治山公園が、これだけ太い緑の軸で結ばれたのは、もしかしたら初めてかもしれない。
- また、この茶色の場所（中央公園から縮景園の辺り）を、歴史・文化・スポーツ交流ゾーンということで、紙屋町と広島駅を接続するという考え方も、おそらく今回初めて出された考え方だと思う。
- 今日、是非、この辺りについて、違和感があるのかなのか、違和感があるのであれば、どういうものが良いのかといった意見を伺いたい。
- また、今回は、それに対して、20～21ページで示されているように、ゾーン別に考え方が整理されており、ゾーニングと一緒に、それをどのように繋いでいくかということで、22～23ページの都心回廊づくりと、24ページの水・花・緑のネットワークという考え方がある。
- つまり、19ページの言葉（都心の将来像、目指す姿）を絵に置き換えると20ページのゾーニングと、22ページから24ページに書かれているネットワークということ。今回、これで具体的に都心づくりを進めていくという方針を示された。
- これを実現するために、25ページに示すように、3つの目指す姿を実現させていくために4つの基本方針が出された。
- それぞれをもう少し細かく言えば、例えば、26ページを見ていただくと、先ほど事務局が淡々と説明をされたが、「施策の方向性①：都心空間のリニューアルによる高次都市機能の充実・強化」においては、今まではどうだったのか分からないが、今後は中四国地方の発展をけん引する商業・ビジネス・文化芸術等の高次都市機能を、もっと集積させて、そうしたものがたくさんある都心にしていきたいということが書かれている。
- もしくは、それをするためには、新しいものを入れるだけではなく、今の建物をリニューアルする時に、そうしたものになるように誘導していきたいという、それぞれの「こんな都心にしていきたい」ということが、ここに書かれている。
- その中で、「施策の方向性⑨：都心へアクセスしやすく容易に移動できる交通環境の整備」ということで、交通ネットワークなどを、このようにしていきたいということが書かれていると理解していただくと、先ほどの説明に繋がっていくのではないかと思う。
- 私の話はここまでにして、先ず、今、申しあげたことでいうと、3章「都心の将来像と目指す姿」ということで、これまで19ページで整理されているものを、どのように実現していくかというイメージを20～24ページで整理されている。
- この辺りについて、各委員の皆様から、確かにそうだとしたことなのか、もっとこうした考え方があっても良いのではないかということについて、感想・意見を伺いたいと思う。
- どなたからでも結構なので、発言をお願いします。

【藤波委員】

- ・ 私は、今説明があったように、ゾーニングをもう少し広げ、ボールパークや比治山公園を入れていくのは賛成である。
- ・ 今日ボールパークで会議が行なわれているが、ここへ来る途中、駅から歩いてきた。
- ・ いろいろと整備をされているようだが、ここも含めて歩行空間をきちんと整備していくということで、既にそこを歩いている段階から楽しめる演出があっても良いのかなという感じがした。
- ・ 積極的に広い範囲での歩行空間などの見直しを考えても良いのかなというイメージを持っている。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。いい口火を切っていただいた。

【山田委員】

- ・ 私は違和感がある。
- ・ エリアの拡大は非常に良いし、市民球場が入ることも必然的なことだろうと思う。
- ・ しかしながら、私が認識している計画の立て方は、ゾーニングが最初にあって、そのゾーニングごとに課題、そのあとに施策がぶらさがってくると非常に見やすいのだが、今回の場合は、ゾーニングが最後に出てきたので、少し違和感がある。
- ・ 何よりも第4章以降は、ゾーンという言葉が全然出ずに、全て地区といった表現である。
- ・ 「広島駅周辺地区」、「紙屋町・八丁堀地区」、「西国街道を軸とした地区」。これで、これまでの会議は、ずっと進んできたということもあるが、地区という捉え方と、今回出てきたゾーン、それが非常に混在しているようで、もったいないような気がする。
- ・ 第3章の「ゾーンごとの将来イメージ」でのみ、ゾーンといった表現が使われているので、ここだけが浮いてしまっている感は否めない。
- ・ ゾーンを設定することで、ゾーンごとの特徴と将来イメージを描かれている。
- ・ 結果的には、19ページの都心の将来像の目指す姿の一番下にある「市民、企業、行政などの多様な人や主体が・・・積極的にまちづくりへの関わりを持ち、・・・架け橋となって・・・」というような、この主体の部分、このゾーンから落ちてしまっている。このゾーンを、目指す姿の中に入れたことで、その主体性という色が薄れた気がする。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。山田先生の意見は、ゾーンをやめるのではなくて、ゾーンに合わせて計画をとることか。

【山田委員】

- ・ それは大変なことだろうと思うので、なんとかゾーンと地区の関わりというか、少し説明されるだけでも違うと思うし、この第3章のゾーンの将来像の説明のところ、あるいは主体はいったい誰がやるのか。全体にかぶる面もあると思うが、その辺を少し記述されるだけでも

良いのではないかと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。

【野原委員】

- ・ 私は大学での専門分野は都市計画・まちづくりであるが、広島市全体には都市計画マスタープラン（都市マス）という上位の計画があると思う。
- ・ 今回は法定計画ではないと思うので、その意味で都市計画マスタープラン等ではできないこと、そこと少し違うこと、もう少し戦略的に、何をみんなで力を入れてやっていくかということが、もう少し見えたほうが良いと思う。
- ・ その意味で、非常にご苦労されてまとめられていると思うが、逆に包括的すぎると思う。
- ・ これだったら都市計画マスタープランの中で都心部エリアの計画として位置付けて計画してもいいのではないかというぐらい、結構、包括的に全体にわたって書かれているので、もう少し戦略として、ここがポイントだということを限定的に掘り下げて書かれた方が良いのではないかと思った。
- ・ 1点目が20ページからのところで、エリアゾーニングの提案と、その次の回廊づくりやネットワークとが、リンクしているのか、していないのかが分からなかった。
- ・ 微妙に連携しているような、いないような形で書かれているが、せっかく併せてやるのだから、回廊づくりやネットワークづくりを戦略的にやるからこそ、それに応じたゾーンができていくとか、そういう形を作っていく必要があると思う。
- ・ 私も広島駅から歩いて来たが、川沿いを歩いて来ようと思ったら、途中で川沿いが歩けなくなっていた。マツダスタジアムへは、川沿いをずっと歩いて回遊できないということに気付いてしまった。だからと言って回廊づくりをすぐにやるかは別にして、それを全体でも考えていくと、今、スタジアム利用者がメインで歩かれる手前側の歩行者空間の整備も大事であるが、スタジアムを訪れる際に、もう少し周辺に立ち寄って、裏側や河川沿いなどを歩けるような有機的な回廊にするとしたら、全体を、これに対応したゾーニングによるにぎわいや憩いの場所として位置付けていかなければいけない。そうすると、(マツダスタジアム辺りは)今の、陸の孤島のようなゾーニングで本当に良いのかなということである。
- ・ 私も土地勘がなく分からないところはあるが、そこを一体的に魅力づくりしていこうとすると、回廊の話とゾーンの話が当然リンクしてくるような気がするので、是非、やって進めていただくと良いなと思う。
- ・ 一方で、広島は、自転車が地上レベルと地下レベルを、スロープを通じて自由に行き来するなと思っていつもびっくりするが、そういう意味では、例えば自転車移動者たちが河川沿いを移動したいというニーズがあり、信号を越えないで下に行った方がスムーズだとして利用していると思うのですが、これにうまく対応していけば、新しい自転車ネットワークで回遊ができるのではないかと思う。そういうことを全面的に押し出せていければ、魅力ある自転車戦略づくりに繋がっていくのではないかと思う。
- ・ 2点目は26～27ページの都心部をどうしていくかというところで、これも是非、施策の

方向性③のように、これから伸びる人たちや、新しくこれからまちを作っていく人、産業のなりわいを作っていく人たちが、どう積極的に、ここで伸びやかに色々なことができるかは、すごく重要だということを考慮いただきたい。

- その方向性と、例えば施策の方向性①のようなものが、本当に噛み合っていないと、このように頑張ろうとする人たちが頑張れる場がない。
- こうした事も含めて、高次都市機能も重要かもしれないが、それだけではなく、起業家たちが徐々に集積するようになっていくには、広島でのステップアップに期待を込めた人たちが来たくくなるようなまちになっていく必要がある。
- そうした意味では、機能をゾーンとして分けることよりも、魅力あるビジネス環境や商業環境等や（少し居住環境があっても良いのではないかと思うが）、そうした場所がどうあるべきか、といった事についても、是非書いていただきたいと思う。
- 商業についても、私は外から来ているが、最近、袋町のうらぶくろなども含めて、広島には、1階が開放的で魅力的なお店が結構いっぱいあると思う。そういったものをどんどん応援していく必要があるし、そういうものがすごく頑張ってくると、次には、歩行者空間を整備していく必要があるねと、官民連携しながら総合的にそういう魅力を作っていくとか、それをどの場所で同時に連携して積極的にやっていくかという戦略が出せると、すごく魅力が出るのではないかと思う。
- 最後に、そうしたことも含めて、市民の方が、どのようなことを求められているかということも、もう少しうまく吸い上げられると良いと思う。
- 私は広島に居ないので、その辺が具体的にどうなのかは分からないが、例えば、若いお母さん方が、うまくそこでも活躍しようとする、一時預かりのようなものが、まちなかに点在してできると、とても環境としてやりやすいという可能性もある。あるいは、ダブルケアで、子育てと介護を同時しなければいけない方にとっては、どういうことがあると、まちなかでも魅力的な活動ができるかということ。
- インバウンドにしても、それこそ歴史のゾーンが、広島城や縮景園と書かれていたが、例えば、横浜は、歴史といっても近代からの歴史しか見えにくいので、実は、西欧系の外国人にはあまり人気がないのだが、広島は、近世の歴史も多くあり、日本の歴史の積み重ねが見える場所も結構あると思う。そうしたものが積み重なると、どのような魅力づくりができ、インバウンドも含めて、日本人だと感じないけれど、外国の人が魅力的に感じる部分はどこなのかということをもっとうまく拾い上げながら、散りばめられていくことで、2045年に向けて、非常に彩りのある魅力的な活性化プランになっていくのではないかと思う。
- そのような少し吸い上げたところが、一番見える形にしていくためには、ゾーンや核のところをもう少し戦略的に、どこをどうみんなと一緒にやりながら頑張っていくかが見えること（つまり、選択と集中と創造）が重要なんじゃないかと思う。
- ゾーンで切り分けるよりも、そうした戦略がもう少し見えたほうが良いかなと思った。

【塚本座長】

- ありがとうございます。非常に建設的なご意見だったと思う。
- 最後のほうで言われていたことは、26ページの施策の方向性のところで、箇条書きにして

あるが、このイメージが見えてこないけれど、本当はこんなことをしたいのですよ、といったイメージがここで語られるようなものにしたら良いのではないかといった理解でよろしいか。

【野原委員】

- ・ はい。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今、特に第3章の内容を議論しているが、前後しても構わないので、例えば、まちのにぎわいや生活のことが出たので、佐藤さんに、ご感想なり、ご意見をお願いしたい。

【佐藤委員】

- ・ 私はゾーン別ということとは想像が付きやすかったのが良かった。そうしたところで、もっともっと深めて、先ほど山田委員が言われたように、何から手をつけていくのか、何をして欲しいのかということを見たいなと思った。
- ・ たぶん基本基軸は水と平和。平和イコール命であるし、水のまち、水は命の源であるし、そこがあって、広島として、これからどのようにプランを作っていくかということだと思う。
- ・ 先日、別件で、私の会社のスタッフの10代から60代ぐらいの30人位に、広島がもっとアピールした方が良いことは何かを聞いてみた。
- ・ その中で言われていたことで、もちろん、水の都や平和都市は大前提であるが、広島でのイベントや観光情報を、もっとPRすべきではないかという意見が出た。そこが、おそらく都心に人が集まる核となるような気がしている。
- ・ すごく良い計画だと思うが、やはり都心に賑わいをもたらすためには、その裏で安心安全、清潔そう、来たくなるというイメージが重要である。
- ・ 環境としてトイレをきれいにしましょうとか、途中途中では書いてはあったが、例えば親子3世代で広島に来た時に、何があったら快適に観光できるだろうとかということを考えて、そこに集う方のパウダールームがあることや、子どもが快適にトイレを使えるだとか、お年寄りはどうかというようなことも含め、こうした施策も充実させて欲しいと思う。
- ・ 地元の人が集っている地元通の場所に、観光客の人は、「地元では何が人気なの？」と行くわけで、その時に、このような楕円形で、こういうゾーンがすごく素敵だよと地元の人が言えるまちでないと、やっぱりいけないと思う。
- ・ 都心の将来像は、「誰もが集える、にぎわいと交流の都心“ひろしま”」であるが、このタイトルもおもてなしの感じはあるけれども、受動的に思えてしまうので、もっと「おいでよ！ひろしまへ」というぐらいに、“ここが魅力だと感じていただくまちづくり“を優先順位に考えたプランにしたいなと思う。
- ・ その時に必要なことは、もちろん、街のにぎわいや、こうした計画も必要だとは思いますが、その裏では、快適に過ごせるという視点も決して忘れてはいけないと思う。
- ・ 全てのゾーンの中に、例えば、清潔さはどうだとか、快適に動ける工夫だとか、盛り込ま

れていると良いと思う。

- 全体的な意見で申し訳ないがそのように感じる。

【塚本座長】

- ありがとうございます。ほかにご意見はないか。

【熊野委員】

- まずは、エリアの拡張や回廊づくりについてご意見を申しあげますと、ボールパークを含めてエリアを拡張すること、また、歩いていてワクワクするような回廊づくりも大変必要だと思いますので、まったく異論はない。
- 去年のカーブの活躍などを見ていると、先ほどもご意見があったが、エリアを拡張してもよいという印象を持っている。
- この懇談会も今回で6回目ということで、今までの議論でいうと、広島らしさや中四国の中枢拠点性ということは、いろいろと議論をされてきている。
- 個人的な感想を申し上げると、今回、30年後をイメージして、6つのゾーンに分けたということは、事務局の方のご苦勞が滲み出ており、非常にイメージがしやすくなった。
- ただ、これを型にはめる必要はないと思う。そこは柔軟に、型にはめずに、いろいろと、これから考えていけば良いのではないかと思う。
- 先ほどの「広島らしさ」と「拠点性」ということで言えば、非常にバランスよく配置されている。
- 十分に、いろいろと皆さんのご意見や議論を踏まえたうえでのものが出ており、考え方自体も、非常に同意でき、良いと思う。
- 広島は、ビジネスや観光など色々な面でポテンシャルがあり、十分検討に値する街だということについて、皆さんご意見に相違はないと思う。
- 目指すべきところは、「広島らしさ」と「拠点性」がうまくバランスを取っていることで、歩いてワクワクするようなまちづくりが非常に大事と思う。
- 例えば、今、東京の丸の内や大手町界限と、日本橋では街並みが全然違ってきている。
- これから東京の丸の内に370メートルのビルが建って、商業という面では、すごいまちづくりがされるみたいである。
- しかし、率直な感想で申し訳ないが、私もあの辺を歩いてみても、全然何も感じない、無機質な街という印象がある。
- 逆に、日本橋はすごくコンパクトにまとまっている街で、日本橋の駅からずっと歩いていると、高島屋や三越があり、そこに昔ながらの街並み、いわゆる日本橋らしさ、東京らしさを残していて、なおかつ商業やビジネスでもかなりの拠点性を持っている。
- 朝から晩まで楽しめるということで、土曜日も日曜日も、いろいろと皆さんがワクワクしながら街が歩けるのではないかというところで、非常にバランスが良いまちづくりをされていると思う。
- 今回のプランも是非、そのような方向で進めば良いと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

- ・ 前回の懇談会では、広島らしさはどうかということで、突っ込んだ議論があったようであるが、前回欠席していて、その議論には参加できなかった。
- ・ 交通が専門ということもあるので、交通の面で、広島らしさとはどういうことかを、全体的に振り返ってみたが、広島の交通というと、やはり路面電車かなと思う。
- ・ 今回提示していただいた素案を見てもらうと、最初の方で交通として、路面電車の写真が載せられており、21ページのところでも、路面電車が真ん中に走っていて街並みが続く、そんなイメージを出している。
- ・ しかし、第4章のところでは、路面電車が見えにくくなっている。私も会議の中では、ずっと歩行者優先という話をしきりにしていたので、その辺が、一番頭に出てきている。
- ・ 広島の交通をこれからどうしていくのかを考えたときに、路面電車抜きには語れないと思うので、基本方針の文言に一言、「路面電車」という文字が出てくるとか、施策の方向性にしてもユニバーサルデザインのところで路面電車の写真が出ているので、順番を変えてもらうとかすると、広島らしい交通環境づくりのあり方として分かりやすい報告書になるかなと思う。
- ・ もう1点は、全体を通じての話であるが、このプランは、定性的や抽象的な表現が中心のプランであり、将来の2045年が目標なので、将来の数値目標までを挙げるのは難しいと思うが、人がいてこそその都心だと思うので、人口に関して、17ページのグラフにあるように、都心に9万人に住んでいるという数値は出ているが、少なくとも、現状として、都心の地区で、どれくらいの人が働いているのか、どれくらいの人が訪れているか、これくらいのボリュームの人が都心に集まっているということを押さえたうえで、将来に向けて、現状維持で考える方向性とか、どれくらいの人が都心に集まっているということを押さえたうえで、将来の方向を考えることが必要かなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。事務局でご回答などがあればお願いします。

・

【平尾委員】

- ・ 私はNPOの立場で入っているので、市民側からのコメントになるかなと思う。
- ・ ここまで、このプランとマスタープランや基本構想等、上位計画との関係は理解できたが、これが実際に、どのような行動計画になるかというところが見えてこない。
- ・ このような中で、今後、パブコメを集められると思うが、市民としては、どこに何をコメントして良いか分からないのではないかなと思う。抽象的、総花的、包括的な内容となっており、全体として「良いですね」としか言えないのではないかな。
- ・ 新しい何かが始まるのかという感じはありながらも、自分の生活がどのように変わるのかということが見えないというのが正直なところである。
- ・ 69ページにある「年表」はこれまでのまちづくりがどのように進んできたかを振り返るこ

とができ、とてもわかりやすい。一方で、今後、これからの30年で、こういうまちづくりを進めていきますよという、ある意味、「未来年表」、ざっくりとした「事業計画」のようなものが描けないだろうか。それがあれば私たち市民もこのプランが「自分事」となり、コメントができるのかなと思う。

- もう一つは、野原委員もおっしゃっておられたが、各施策の強弱みたいなのところが見えにくいという点。
- 過去の会議でも、各方針の「優先順位」が必要なのではないかという話をさせていただいてきた。例えば車、自転車、人というのが並列的に並んでいて、結局どれも取るけど、どれが大事かということが見えてこない。
- これは一つの例であるが、どの施策が一番大事かという優先順位をつけていくなかで、広島市としての色や中心市街地の「個性」が見えてくるのではないかなと思う。
- 横並びもあるが、さらにそこで、強弱や、優先させていくべきことが何かということが見えてくると、さらに立体的になり、プランが具体性を帯びてくるのかなと思う。

【塚本座長】

- ありがとうございます。

【下村委員】

- 商業者としての観点から申しあげたい。
- 都心の特性と課題ということで11ページのグラフ。皆さんもよくご覧になると思うが、このなかで八丁堀・紙屋町周辺がずっと減少している。
- 府中町の府中、これは1店舗しかないが、1店舗でこれだけの12.5%ぐらいのシェアを占めているということで、中央部、都心の活性化の一つとして、商業の中心地というのがこのままではと、非常に危機感を持っている。
- ご承知のように、ソレイユが増床して中四国最大の売り場面積となったが、この前の正月にも大交通渋滞となって、自動車が店舗敷地の入り口から広島駅周辺の荒神陸橋まで、ずっと繋がって、入ることができないような状況になっている。
- その辺を含めても、商業の中央部、いわゆる、今からの都心のなかで活性化、商業ゾーンという形で表現されているが、他都市に行くと中心部の商業ゾーンが活性化されていないという都市は非常に多くあり、現状課題の中の一つには、こうした大型店の隆盛がある。
- 何回も皆さんに申しあげているが、広島では、今後、石内にでき、商工センターにレクトができる。蔦屋さんやカインズさんなど、面白い組み合わせをしながら新しいショッピングセンターとしてのムードを作っていらっしゃる。そうしたことによって集客力がまた分散する。そして、石内がアウトレットになると、また分散する。
- そうなると、広島の人口は、今後、減少していくのだから、その中であっては、このようなゾーンを作ったとしても、中四国最大の業務・商業ゾーンがなくなるという可能性もなきにしもあらずと思う。
- その辺をどうするかということで、例えば広島県が企画している多島美のプロジェクト。広島を中心に、瀬戸内7県でやっているが、広島が多島美を多くの方にアピールして、アジア、

例えばタイや、台湾から、自転車で周遊される、尾道へ出かけられる等、広島が中心都市として、観光客を集中させるとか、そうした形になるような格好をとっていただくことでさらなる観光客の増大が見込めるのではないかと。

- この前もオバマさんが来られて、広島は今、欧米の方が非常に増えている。
- 確かに欧米の方はお金をあまり使わないので、我々、商業者にとっては、あまりメリットはないけれども、そうした方が宿泊をされて、飯を食う、お好み焼きを食べられればそれだけのお金が落ちる。それによる集客力、あるいは資金、お金の循環ができるわけで、その辺を考えた形での、観光客の増加を図る手段として、どのような形をとれば、広島の魅力が出てくるかというところの基点に立つと、こうした形のゾーンを設けながら、いろんな形の集客力を図るということ。
- その中で、もう一つ申し上げたいことは、広島の場合は、3,000人規模のコンベンションセンターがないということが非常にネックになっており、広島を抜けて博多や大阪に行くという現状である。
- 経済同友会で計画を立案して公表されているが、広島県庁を移転して、あそこに大きなコンベンションホールを作るなり、そういった人々に広島に集まっていただく。今からは、そうした3,000人規模の設備を作っていかなければいけないという思いである。
- 先ほども意見があったが、広島市はプランが多すぎてD oがない。D oをどうやってやるかということ、長期・短期的といった形で毎回やっておられる。短期的にはこうしましょう、長期的にはこうしましょうといったプランは出てくるのだけれども、それが実際に行なわれているかということ、広島は遅い。
- 毎回、市長にも申し上げているが、サッカー場をどこへ作るかも、何年もやっても、まだできないということで、非常に遅い状況である。
- これは、様々な状況があるので、一概に市長の責任とは言えないが、そうしたサッカー場が、広島の都心のなか、例えば、中央公園に、広島三大プログループの一つでもできると、様々な活性化ができる。それも早くやりましょうということ。
- 皆さん、やりたいことはわかっているわけなので、とにかくD oをやっていただきたいということをお願いしたいと思う。

【塚本座長】

- ありがとうございます。
- 計画づくりの目標年次みたいなものと、でもやりたい、やらなければいけないことが目の前にあるということで、その辺りは非常に難しいことだろうと思う。
- その中で次の30年先を目指した時に、どういう夢を持つかが、この懇談会だと思うので、それもそれで大事かなと思っている。

【谷村委員（代理 下平地域振興担当部長）】

- この懇談会の以前にもご紹介させていただいたが、昨年に、都心の活性化のプランを都市機能強化委員会でまとめたことを話したが、昨年10月に「都心活性化推進プロジェクト提言2016」として提言をまとめた。

- ・ 12月に深山会頭より知事、市長にも提言をご説明させていただいた。これは、ホームページにも出ているが、2003年（平成16年）に、一度、都心活性化推進プロジェクト提言をさせていただいており、今回はその続編である。
- ・ その時は、先ほど発言があったが、うらぶくろ商店街の形成と相性づけや、平和大橋北側の歩行者道の新設ということを提言し、それが実現している。
- ・ その後、未実現の項目があったので、今回は、それを重点的にしようということで、例えば平和大通りの魅力拡充や、和み・休憩施設の提供等がなかったことが、今回、提言を出す理由になっている。
- ・ 今、申したように提言を2つほど絞っていて、平和大通りの魅力拡充、これは今回の素案にもあるが、20ページの平和記念公園から比治山公園、平和への思いを共有するゾーンとして、縦と横のプランであるが、平和記念公園から新しい平和大橋の歩道橋ができるが、そこで、平和大通りから中四国最大の業務・商業ゾーンに行くような回遊性を意図している。
- ・ 例えば、カナル（水路）・噴水などの親水空間や、夜間のライトアップ、花カレンダーで季節ごとに楽しめる草花を植える、多彩なイベントの開催、あるいはフリーマーケットなどを作ってはどうかなど、これは、平和大通りに面するビルやテナントさんが、自主的にできる限りのことはやろうという提言をしている。
- ・ もう一つが、広島陸の玄関ゾーンをターゲットとした水辺空間の整備活用。
- ・ 特に川岸公園の整備ということで、現在、水辺のカフェ等ができているが、博多等では水上公園がオープンし、視察をしてきたが、そうした水辺の施設を、ここの広島陸の玄関ゾーンと中四国最大の業務・商業ゾーンをつなぐ場所に作ったら、人の流れがスムーズになるということで提言している。
- ・ また、提言にはないが、先ほど下村さんが言われたように、コンベンション都市としての機能をより高めていくべきだということも、終わりのほうに記載している。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。

【吉田委員】

- ・ 活性化プランの内容については、事務的に調整をさせていただいているので、特に意見はないが、この計画をどのように実行していくかだと思うので、また、ご支援・協力をしていきたいと思う。
- ・ 個別の話で、36ページの先導的な取組の都心の地区計画の見直しで、実行段階で、先ほどから短期的とか中長期的という話があるが、広島らしさ、そういう観点、統一感のある洗練された街並みということで、京都や金沢みたいに高さ規制や色の規制など、そういうことによって、5年10年ではできないだろうが、30年50年というスパンでみると広島らしいなというのが実現できればいいと思う。
- ・ 昨年、広島にきて、非常に水辺空間や緑が多いという実感があった。
- ・ イメージパースにもあるが、緑化ということかというと、路面電車の話もあったが、軌道空間が緑化したような図になっている。

- ・ 路面電車の軌道空間の緑化については、全国的にも2つ、3つぐらいしか事例がないが、このように先行的に緑化して、まち全体をもっと緑化していくといったことは、それほど時間をかけずにできると思うので、是非プランに従って、実行してもらえればと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。ほかにないか。

【山田委員】

- ・ 今回のプランの地区とゾーンといった区分けは、いったいどちらか、分かりにくいという話をさせていただいた。
- ・ その時に発言をし忘れたことがあって、年末の中国新聞の記事に「世界に誇れる『まち』広島 創生総合戦略改訂案」が公表されたという記事があり、新たな施策として「平和への思いを共有するまちの実現」が追加されたという記事が載っていた。
- ・ 具体的には、外国人観光客向けに平和関連施設を巡る平和観光ルートを作るといったようなことが書かれていたが、20ページのゾーンの名称について、残すとしても「平和への思いを共有するゾーン」という言葉と、今回の総合戦略の中で出されている「施策10 “平和への思いを共有するまち”の実現」というところが重なっているのでは、その辺は問題ないかなというところが気になったので、再度、検討されてはどうかと思った。
- ・ また、全体を読ませていただいて、少し気になったところがある。それは、1ページに策定の背景・目的である。
- ・ 今回のまとめられたプランはどちらかというと楯円の都心エリア、当然、都心としての魅力を高めるための拠点性を高めるということで、いろんな施策がぶら下がっているわけであるが、この1ページの3段目の下から2行目のところで「広島市は、広島県と連携して広島市の都心や市域、県域の発展をけん引するとともに、広島広域都市圏の発展に資するよう・・・」と書いてある。
- ・ こうした拠点性を高めること、拠点として魅力を高めることが、周辺エリアにどのような貢献や影響をもたらせるかということに、まったく触れないでいいのかなということが気になったので、内部で検討していただきたい。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。事務局からあるか。

【事務局】

- ・ 非常に幅広い意見をありがとうございます。
- ・ 20ページ以降で、こうしたゾーン分けと、人の回遊、もともと都心をどうしたいかが分からないというご意見もいただいていたので、いろいろと考えて、こうした形にしている。
- ・ このゾーンの分けと、後ろの第4章の施策とのつながりについてのご意見もあったが、なかなか地区ごとに、これをやるということは、結構、色々と関連性もあり、難しいところもあるので、第4章のような総括的な話になっている。

- ・ 優先順位の話もあった。計画だけではなく、実行していくことが大事という話であり、当然、我々は、これを作ってそれで終わりということではなくて、きちんとこれをフォローしながら、来年度以降、実行していきたいと思っている。
- ・ そうした中で、実際に進めていくのは、それぞれの部署になるので、そうしたところを重点的にやってほしいという働きかけも当然やっていきたいと思っている。
- ・ 今回、いただいたご意見についても、いろいろと検討していきたいが、今年度末までに「ひろしま都心活性化プラン」を策定するといった行政の目標があるので、今後は、庁内でも検討を進めるが、ベースについては、こちらの素案で作業を進めていきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。他に発言はないか。

【平尾委員】

- ・ 先ほど総花的なプランではないかという話をさせていただいたが、もちろん2045年、まだ30年近くある中で、このようにならざるを得ないところがあるということは理解している。すべてを具体的に記載したところで、市長が変わったり、社会的な変化も起こるであろう中で、それは仕方がないということは前提である。それは承知しつつも、市民とこのプランとの関係性を明らかにする意味でも、未来に向けての年表を作ったら良いのではないかという話だった。
- ・ もう一つ。このプランにおいては、一方的に、すべてを「行政さんやってください」というようなスタンスになっているように感じるが、市民がすべきこと、NPOや企業が担うべき役割なども、もっと書いても良いのではないかと思っている。
- ・ 加えて、プロジェクトなので、いつまでにやるかは、もちろんであるが、「誰がやるか」ということに関しても記載した未来年表があればと思う。
- ・ 今後の話にも触れた上で、市民の主体性や参画をもっと大事にしなければいけないのではないか。
- ・ 今後、ますます少子化が進み、人口減に伴い税収も減っていくなかで、市民も主体的にまちづくりに参画していく必要がある。それも踏まえると、市民のやるべきこと、やらなければいけないことも、プランのなかに記載があっても良いのではないかと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 当然のことであり、逆に言えば、それを市から言うと「市民にやってくれ」ということになってしまうので、是非、平尾委員や佐藤委員等、我々はこうしたことをやっていけば良いのではないかということ提案なりしていただきたい。
- ・ これが行政から一方的に押しつけるのではなくて、皆さんの意見も聞きながら一緒にやっていく目標だということで、少しでもその辺りが見えるものになると思う。
- ・ そうしたことで折角なので、ご協力をいただければよろしいかと思う。

【野原委員】

- 今の話に関連するが、計画の中身だけでなく、今後の進め方も含めて考えていただきたい。今までのこうしたプランニングは、全体のイメージ（コンセプト・方針）をややぼんやりと共有して、実際にやるのは各部署に分かれて分野別となってしまうので、その後はそれぞれの部局に移っていたら、再び全体には戻って来なくなってしまう。
- 将来像は分からないので、ここで具体的に決められない中で、具体的なイメージは共有しにくいので、それぞれのところで考えたり進めたりしている事業や部分をもう一度、持ち帰ってきて、再び繋ぎ合わせる、統合するというのも必要になるのではないかと思う。
- それは、今おっしゃられた民間の話も同じで、結局そこで出てくるものの中から、もう一回集めてきたら、こことここは噛み合っているから、是非一緒にやっっていこうということで、強くここを合わせてやっっていこうということを統合・連携的に考えていくことが必要である。
- そうした意味では硬直的に、ここで決めたら2045年まで、これでいきますというよりは、少し見直し、今後も議論していきながら精度を高めていくという進め方が良いと思う。
- それぞれが抱えていることを聞いてみると、実は、こことここを一緒にやればうまくいったのではないかという話を、どのように組み上げていくかということ、今後できれば良いかなと思った。その辺の進め方、方向も含めて、どのような形で進めていくかが重要だと思う。

【塚本座長】

- 折角なので野原委員が、横浜で関わっておられることや、他の都市も見られて、今言われたようなことを、具体的に何かの組織なりワーキングを立ち上げて検証しながら計画を見直していくといったことをされた事例はあるか。

【野原委員】

- 例えば、この楕円の2つの核を緩く、大まかに繋ごうとすると書いて書くと思うが、本当に進めていこうとすると、具体的にどのようにしていくかについては、中々この段階で書き切れないと思う。
- 平和大通りは南側にあって、外から来た私などは、広島駅に降り立って、一番北側の中央公園に向かう道（城南通り）が直線的で一番西に行きやすくて、ここがメイン動線かと一瞬思う。路面電車は、その間の相生通りを通っており…と、実は、軸が3本あり、どれを本当に高めて東西を繋いでいくかということは、結構難しい問題であると思う。
- 今後はそうしたことも考えながら、どのような形でつないでいくか、今後、議論をどんどん深めていって、本当のあるべき姿を見つけていければ良いのではないかと思う。そうした意味で、そこまで今回は決めきらなくてよいと思うが、ここでは、それをより良い形でつないでいくには、みんなが協力しあって、どこをやっっていくべきかについて議論できる場を作ることが大事かなと思う。
- 横浜では、創造都市・横浜（クリエイティブシティ・ヨコハマ）を10年ぐらいやっっていて、それは今まで個別の分野ではできなかったことを、どのように創造性を加えながら、歴史建造物の活用や、クリエイターの活躍の場の創出、まちなかの活性化も含めてどのように「横断型のまちづくり」を進めて行くか、一生懸命やっってきている例もある。

- また、千葉県柏市の柏の葉キャンパス地区では、公×民×学連携で新しいまちを作るということをやった。公として、千葉県と柏市が一緒になって、民は、企業の方も市民の方も、学については、専門家、NPO、大学等が集まりながら、一つのことをどのように進めていくのかということをやった。その中で、先日、新しく造成されている市街地である柏の葉地区の中に、調整池というものがあるのだが、調整池は通常、雨が降った時に、過剰な雨水をどう流すかというための、いわば「ため池」であるが、その存在を逆手にとって、魅力的な水盤ととらえなおして、その水をきれいな水のある「池」にし、そこを憩いの場（公園的な空間）にするといったプロジェクト（「アクアテラス」）を行い、昨秋オープンして、来春にはT-SITEが隣接地にオープンする。
- これは実際にやるとなると、行政的にはとても難しい話であったが、それをまさに、周りの大学や地権者も一緒に協議会を作って、負担金も民間の人たちからも取り、逆転の発想で魅力づくりの核にしているが、そうしたことを進めていくために、まさに、みんなが連携してやらないと、一つの主体だけでは全然どうにもできないという話だった。
- そうしたことを、一つ、狙ったり、これを連携でやってみようといったプロジェクト型でもあったりすると、イメージが湧きやすいと思う。そもそも都市計画のマスタープランではないからこそ、こうしたことで打ち出せていければ良いのかなと思った。

【塚本座長】

- ありがとうございます。貴重な情報なので、ぜひ次回、計画の進め方のところでまたご議論いただければと思う。

【藤波委員】

- 表現上の問題であるが26ページ、基本方針1の4行目、「最近では、幹線道路沿いでありながら、低層階も含め全体が住居となっているマンションが建築されるなど、にぎわいが失われることが懸念されます」というのは、おそらくにぎわいの連続性が失われるというか、分断されることを懸念されているのかなと思う。
- それはそうかもしれないが、これは結構難しいことで、民間企業であるので、その土地をどのように利用することがベストかということは、そのときの地価や、まちの発展の具合などによる。
- 近年は、地価が全体的に低い状態で安定しているので、マンションが建つという話にどうしてもなりがちである。そうしたなか店が入れる形にすると、下が空いてしまって、かえってまちのにぎわいが失われる気がする。
- 本気でこれを進めていこうとなると、例えば、香川県高松市の丸亀町商店街のように、行政が何かやるというよりは、定期借地権を使って、地域の商店街が中心となって、地域連携型の再開発を主導して、土地の利用権と所有権を分離して進めていく、その様な、かなり高度なテクニックを使わないと、本当の意味での再開発はできないと思う。
- 低層階はお店にして下さいと指導をすると、かえって良くない。
- その地域の土地をどのように活用するのがいいかということは、行政だけではなく、地域全体で考えていくことが必要なのではないかというイメージである。

- ・ この一文だけ読むと、何かを強制していくように思えたので、おそらくそうではないと思うが、明記しておいたほうが良いのかなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。何か事務局から発言があるか。

【竹中局長（代理 八谷地域振興部長）】

- ・ 本日は貴重なご意見をいただき、最終的に取りまとめにあたっては、広島市と連携して、可能な限りその意見を反映してまいりたいと思っている。
- ・ 県の立場で一点だけ申し上げたいが、この種の計画は、まちづくりの主体であり、政令市である広島市さん主体でやられているが、県として関与している理由は、当初申し上げたとおり、県全体の4割の人口、経済を占める広島市の発展が、県全体の発展に密接に関係しているということである。
- ・ 東京一極集中が進むなかで、広島市が、今現在も、人口が増加段階にあると、さらに都心部については高次都市機能が集積した中四国随一の拠点性を持っていると、ここを広域自治体である広島県としても、市と連携してしっかりとその魅力向上を図っていきたいと思う。
- ・ 山田委員が、周辺に対する影響とおっしゃられたが、確かにその周辺の人口減少が進んでいる。
- ・ 一方で、東京一極集中ということであれば、広島市の都心部の魅力向上を図ることでダム効果を発揮し、東京への人口流出を防止する。広島市の都心は、一つの大きなダム機能を持つものであるということで、そうした意味で、県も広域的に波及効果のあるエリアであると考えている。
- ・ 従って、知事、市長も含め、トップ会談の中で、こうした政令市と県が一体的に計画づくりを進めていくということは異例の取り組みであるが、こうした合意のもとにやっている。
- ・ 皆様のご意見をいただきながら、段階的かつ着実に進めていきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。宮原局長お願いします。

【宮原局長】

- ・ 今日貴重なお時間、ご意見をいただきありがとうございました。
- ・ いただいたご意見をできる限りうまく反映させていくように、事務局の中でも引き続き検討していきたいと思っている。
- ・ 補足であるが、必ずしも都心部内のエリアに何もかもを持ってこよう、物を移動させて、中心部だけがよくなるとういった意識を持って、この計画を作っているわけではなくて、中心部が元気になることにより、都市圏、あるいは創生総合戦略にあるようなエリア全体、圏域全体といった形で、発展・維持していくために、こうしたものをお示しさせていただいたのが今回の計画の一つの大きなポイントと思っている。
- ・ また、将来像等について共有できれば良いと思う。将来の目標像等について、引き続き、幅

広く市民の皆さんも含めてご意見をいただければと思う。

- ・ 計画を作ると実行していかなければならないというご意見、これは内部でも出ており、その辺については、具体性を持たせていかなければいけない。
- ・ そうした意味では、基本方針と施策の方向性と具体的な施策という中で、できる限り、少しテクニカルで、分かりにくい部分も多々あるかと思うが、具体的なことのイメージを持って取り組んでいこうという気持ちをしっかり持っていますということ、できる限り伝えたいと思っている。
- ・ 確かに将来像の目標が30年後、被爆100周年、具体的な施策は15年程度ということであるが、まだまだ不十分で、これだけで実現できるかというところはあると思う。
- ・ そうしたことについては、将来の目標像や方向性をある程度共有しながら、具体的な展開については、様々な状況の変化に応じてリニューアルしていく、継続していく、新たに追加していくと、そうしたプロセスをきちんと踏んで、進めていきたいと思う。
- ・ 今後は、議会や、市民の皆さまにご意見をいただいて、より充実したものにしていきたいと思うので、引き続きご支援ご協力のほどよろしく願います。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは次回の懇談会が最終回としているが、色々な意見を反映させていくのは今回が残された機会ではないかと思う。
- ・ 従って、本日のこれだけの時間、1時間足らずで、これだけの方にいろいろご意見を伺ったわけであるので、恐らく言い足りていないこともあるかと思う。
- ・ 事前に資料も読んでいただいて、色々なこともあると思うので、是非、何かあれば事務局にメールなり、直接乗り込んでいただいても結構であるので、是非、色々意見をお伝えいただきたい。
- ・ これを踏まえて、私からも何度も申し上げているが、これは行政計画や法定の都市計画としてオーソライズしていくものというよりは、皆さんがあと30年経った時に、広島がこうなるといいねという思いを共有するための場のような気がしている。
- ・ それがはっきりしないと、様々な施策を出したとしても、何のためにやるのかというところでぶれてくると思う。
- ・ それは、こうしたまちの実現のために進めているんだ、というところがイメージできる、皆さんが共有できる土台としての計画になるというのが大きな夢である。そうなればいいなと思いつつ、今まで努めさせていただいた。
- ・ 最後の計画のまとめも、是非そのような形でまとめていただけたらと思うし、ぜひ言い足りていないことはご意見として伝えて頂いて、計画が良いものになればと念じている。
- ・ それでは進行を事務局にお返す。ありがとうございます。

【事務局】

- ・ 本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。
- ・ 塚本座長におかれましては懇談会の円滑な進行にご尽力いただきありがとうございます。

- 本日、いただいたご意見等を参考に、事務局で作成を進め、市民意見募集を来月行い、そのうえで、今年度中にひろしま都心活性化プランを策定したいと考えている。
- 次回の懇談会は、市民意見募集後を予定するが、日程は別途、調整・連絡させていただく。
- 以上をもって第6回懇談会を閉会する。ありがとうございました。